

(様式)

平成 29 年度 新技術導入経営改善実証展示ほ 成果情報

いちご「スカイベリー」の品質向上技術の確立

要約

摘花(果)により頂花房～三次腋花房までの平均糖度は 9.0～10.5%と高く推移した。10 a 換算の労働時間は摘花(果)に要する時間を含めても各月おおむね 140～200 時間に収まっており平準化が図れていた。しかし、出荷量及び販売金額は 1 月までの減少が大きく、前年に比べそれぞれ 72%、93%と大きく減少した。

○ 展示のねらい

スカイベリーは、リーディングブランドとしての安定した品質・食味確保には課題がある。

収穫時期や果房内でも食味のバラツキがあるため、摘花(果)による果実品質の向上と管理作業の労働改善効果を実証する。



写真：摘花(果)による赤箱出荷状況

○ 主な成果

- (1) 頂花房から二次腋花房までの各花房を 4 果に摘花(果)することで果実糖度は、頂花房～三次腋花房まで平均糖度 9.0～10.5%と高く、8%以下の果実は極めて少なく、ばらつきは少なかった。

表：花序別の糖度(Brix)

花序別糖度	頂花房				1次腋花房				
	1果目	3果目	4果目	5果目	1果目	3果目	4果目	5果目	
	10.8	9.6	9.4	10.0	10.2	9.5	9.7	9.2	
2次腋花房				3次腋花房					
1果目	3果目	4果目	5果目	1果目	2果目	3果目	4果目	5果目	6果目以降
10.6	10.3	10.1	8.9	8.9	9.2	9.1	9.1	10.2	9.6

- (2) 頂花房～二次腋花房までの 1 果重は平均で 29～46gと大きく、20g以下の果実はほとんど見られなかった。また三、四次腋花房のすそ玉では 21g以下の果実が多く見られた。
- (3) まだら果等の障害果発生はほとんど見られず、生育も安定し、花房も連続しており、4 月中に五次腋花房の収穫が始まった株も見られた。
- (4) 労働時間のうち、摘花(果)に費やしたのは収穫前の 11 月から 2 月までで、特に一次腋花房の摘花時期であった 1 月が多かった。摘花・収穫・調整までの合計の労働時間は 4 月時に 206 時間と最高になった他は 140～200 時間に収まっており平準化が図れていた。
- (5) 規格別の出荷実績は K、G 品が数量減となっており、すそ玉摘花により A、B 品も大きく減少した。また、出荷総数は前年比 72%であった
- (6) 販売実績は頂花房～一次腋花房の収穫期間である 11～1 月で減少し、2 月以降は前年より増加したが合計では 93%であった。

○ 今後の方向性

- ・今回の摘花(果)方法では収量へのマイナス影響が大きいため、H31 年産に向け摘花(果)の方法及び時期について再度検討する必要があると思われる。
- ・ブランド化に向けて生産組織としての取組が必要である。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：壬生町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315